2022年度 NCV 函館センター放送番組審議会

■2023年1月19日実施
■番組審議委員
井ヶ田嗣治（株式会社丸山園茶舗社長）
岡本啓吾（函館コミュニティプラザ G スクエアセンター長）
木村健一（公立はこだて未来大学システム情報科学部 学科長・教授）
笹井完一（函館あうん堂）
菅原和博（函館市民映画館 シネマアイリス代表）
富成雅子（学童保育支援員）
中林尚子（函館市亀田交流プラザ館長）
庭田徹（五稜郭タワー渉外部長）
丸藤競（函館市地域交流まちづくりセンター センター長）

五十音順

■審議番組
「ミライハコ」 （15分番組） 2022 年8月～

■番組概要
コロナ禍が続く中、地域の未来のために、環境のために、子どもたちのために張っている人や団体、企業の取り組みをご紹介します。
番組を通して、これらの活動を知ってもらい地域と企業、人をつなぐきっかけをつくりたいと考えております。

■インタビュアー IN＆OUT－ハコダテとヒト－ 編集長 阿部光平さん
#2 函館モノクラフトマーケット代表 千葉建介さん（2022 年 11 月放送）
#3 北海道ガス株式会社（2022 年 12 月放送）
#4 七飯男爵太鼓創作会 第4代会長 高橋理沙さん（2023 年 1 月放送）

■番組の感想
【委員】
ハコダテとヒトの編集長　阿部さんのお人柄もあって、インタビューでは、それぞれの方の魅力を前面にだせた魅力あふれる番組でした。
函館に移住された方。時の流れとともに変化し続けライフラインを提供する機関。
育った地域に、自ら学んだものを持ち帰り、郷土を愛し生活している地元っ子と。
この道南を表現しているものであります。
また、これからの地域を考えるうえでも教材となった番組で、興味深く拝見できました。
開港場としての函館から、北洋漁業であり北海道の玄関口　青函連絡船の港町から、観光地へと大きく舵をきって進んでいる函館です。
ミライハコをシリーズ化すると、道南の役割。
特にチョクーポイント（物資の重要な海上輸送ルート）のひとつである函館圏のありかたを示すことと思います。楽しみにしております。

【委員】
モノクラの回
千葉さんの人となりを感じる良いインタビューでした。
移住者として函館の魅力をお話しつつ、西部地区の素敵な街並みが流れるシーンは、これを見る市外の人にも影響を与えると感じた。
今や「モノクラ」は地域に根付いたものになっているが、そこに至る経緯が改めてわかって、それが更に次に向かっていることの希望を感じた。

北海道ガスの回
オープニングの情緒的なシーンが印象的だった。
函館らしいけど、中々見たことの無い視点での風景と、その後のインタビュー中の仕事中の
映像も、働く方の姿がドラマチックで、地域の生活の基盤を担ってくれている人に対して
ありがたさと誇らしさを感じた。
ガスを作る人～ガスを生活につなぐ人と人を介して北ガスさんが地域に貢献している構成が
とてもわかりやすかった。
ガス灯の話や、宮沢賢治のお話も函館の歴史を感じる面白い話でしたし、これからの展望も
とても意義深いことだと感じた。

七飯男爵太鼓の回
阿部さんの太鼓体験レポは今までのインタビューとはまた違って動きがあって面白かった。
高橋さんの太鼓に対する考え方や捉え方を引き出してから、後半のインタビューに入る導線が凄く素敵だと感じた。
最後には会に参加する方の楽し気な光景などもあり、会が継続することの意義が感じとれた。

【委員】
審議番組の「ミライハコ」を視聴した際の、第１印象はインタビュー番組なのに、宣伝臭があるな、というものでした。
特に、＃3「北海道ガス株式会社」は企業の広報番組としての設えが強い印象を受けました。
ステルスマーケット手法のような印象を与えてしまうことで、「未来にむけたメッセージを聞く」というインタビュー番組としての主旨が、弱まっているように感じられたからだと思います。
法人を対象としているので、やむを得ない部分があろうかとは思いますが、、、。
対して、＃2「函館モノクラフトマーケット代表　千葉建介さん」と＃4「七飯男爵太鼓創作会　第4代会長　高橋理沙さん」のように、番組スタッフが、インタビューイ（取材を受ける人）の人物像を掘り起こそうという真摯な意向が伝わってくるため、宣伝臭を意識することが殆ど無く、好意的に視聴できました。
ただ、＃4と比較すると、＃2のやや表面的なインタビューイのコメントが、宣伝臭を少しだけ強くしている感じがあります。
視聴者としては、こうしたインタビュー番組に期待するのは、新聞の「ひと」欄に相当するような、インタビュアーの好奇心にまかせた「つっこみ」と、それに応えて浮かび上がってくるインタビューイの「興味深い」人物像のように思います。
結果的に、それがインタビューイの「宣伝」になっても、この場合は何の抵抗も感じないものです。

【委員】
トークを通じて移住者、Ｕターン者であるからこそ見える函館、地域に根差した企業であるからこその理念　などなど、普段聞くことの出来ない、各代表や企業における函館の未来への想い、希望、夢、様々な“向き合い方”といったものを垣間見る事が出来、その団体や企業がより身近に感じられる素敵な番組だと感じました。
また15分という放送時間が配信慣れした視聴者側にとって“丁度良い”見やすさを感じました。
全編を通じて元気、活性という言葉が全面にあり好感がもてる番組でした。

【委員】
人、仕事、地域、そこで生きることの意味。それぞれに迷いなく自分の道の先を見ている。
その姿は羨ましくもあり、眩しくもある。彼らの笑顔が素敵だ。
たぶん様々な苦難を経験してたどり着いた笑顔なのだろう。
進行役の阿部さんの落ち着いた問いかけと、15分という枠に中での安定したカメラワークによる的確な編集が、番組のクオリティを側面から支えている。
3番組の中で描かれていることは企業であれ、アートであれ、伝統芸であれ、軸は「その人の歩んだ道」に帰結するという視点で、本シリーズは貫かれている。
そこに制作者の意志を感じた。

【委員】
＃2「函館モノクラフトマーケット代表　千葉建介さん」
千葉健介さんをはじめとするモノクラマーケットの皆さまには、亀田交流プラザで開催しているものづくりワークショップで市民の皆さまにものづくりの楽しさを教えていただいています。
非常に人気の講座で、参加された皆様にいつも喜んでいただいています。
ミライハコのインタビューを通して、どのようにモノクラマーケットがはじまったのかがよくわかり、興味深く拝見しました。
番組全体を通して映像が美しく、特に千葉さんが函館の印象として語られていた「見たことのない衝撃・・」というところで流れる函館の風景は、衝撃と語るに納得する美しい風景でした。
また、コーヒーフェスティバルに参加していた子供たちが生き生きとしたとても良い表情をしていたことや、活気のある様子に、「ものづくり」という体験が函館市民に必要とされていることを感じました。

＃3「北海道ガス株式会社」
北海道ガスの歴史や函館支店長の高橋さんのお話にあった宮沢賢治のお話が興味深い内容でした。

＃4「七飯男爵太鼓創作会　第4代会長　高橋理沙さん」
今回の番組で、七飯男爵太鼓創作会の存在を初めて知ることができました。
今まで見聞きした和太鼓と印象が随分違うと感じました。
和太鼓朗読劇など、芸術的な要素が強いと感じ、一度見てみたいと思いました。
もっと広く知られるとよいと思いました。

【委員】
3人三様なれど、どの方も表情がとても生き生きしていて、インタビューにハキハキと応えていて、聞き苦しいところはなく、こちら（視聴者）は元気をもらえたと思いました。
きっと伝えたい事が沢山あって、御本人達にもパワーが溢れているのだと感じました。

レザークラフトのＫさんは、函館蔦屋書店で開催されていた頃から、友人も加わっていたのでお名前とお顔は知ってました。今は元町なんですね。

北ガスは正直、我が家は実家暮らしの時から「プロパンガス使用」で現在も住まいの関係上、都市ガスとは無縁です。
まだ市電がガス会社経由五稜郭駅まであった頃の記憶があり、大きなタンクがとても印象的でした。
現在の様子はなかなか見ることはできないので、放送で緊急車両のことや、今後のエネルギー問題のことなど聞けて少し安心しました。
祖母（1898 年生まれ）が実体験したガス燈の灯りが、初めて灯った瞬間の事は良く聞かされました。
「世の中がパーと明るくなった❣」と❣

それまでの、ろうそくや油での光は和裁の先生をしていた祖母には辛かったと思います。
きっと心の燈火もついた瞬間だったのだと思います。

そして、七飯男爵創作太鼓…
家から近く、犬の散歩で文化センターから聴こえて来るのを何度か聞いたことがあります。
でもステージでの本格的な演奏はまだ見ていません。
あんな細い体から、力強い響きを出すなんて!！と言う驚きがありました…
でもやっぱりバチをもつ腕は筋肉が付いていて、流石だなぁと……
打楽器奏者の息子が教えてくれたんですが、「和太鼓は習字、ドラムは筆記体……
それくらい大きな違いがある❣」そうです。
コロナが収まり、色んなステージやイベントで活躍されることを切に祈りました。

【委員】
15分間があっという間に過ぎた感じがしました。
コンパクトにまとめられていてさすがプロだなと感じました。
モノクラの千葉さんの新天地での活躍、北ガスさんの技術者や宮沢賢治さんが修学旅行で立ち寄ったとか、函館には巴太鼓がありますが七飯男爵太鼓とは新鮮でした！
地元の方、観光でいらした方、問わず函館での思い出作りの情報提供の番組としてこれからも楽しみにしております。

【委員】
15分弱という時間の中で、団体や企業の活動に対しての思いや背景などをうまくまとめていると感じました。
長さ的にも、15分弱が、ちょうど飽きさせない濃さになり良いと思います。
この3本に関しては、名前は知っているけど詳しくは分からないという団体・企業が取り上げられていて、そのほど良さが絶妙だと思います。

モノクラ千葉さんはイベント会場などでよくお会いしていたので、活動への思いを丁寧に聞けて良かったです。
革クラフトの面白さもしっかり伝わってきました。
今回は奥様との関係が軸になっていたので、奥様へのインタビューは良かったと思います。

北ガス前半の工場見学風のところが面白かった。
それに比較して（仕方がないのは当然なのですが）支店長の話しは、ちょっと予定調和的だったかも。
宮沢賢治のエピソードは良かった。

七飯男爵太鼓「命のキャンパス」とか「牛と木の生まれかわり」といった、素敵な言葉を聴くことができ、良かったです。
高橋さんの魅力をとても上手に伝えてくれていると感じました。

■意見・改善点
【委員】
番組自体に改善は特に無いのですが、ミライハコの YouTube 動画をもう少し拡散しても良いのかと思いました。
番組を見ている人であれば 1 か月放送されているので見られる機会はとても多いと思いますが、NCV を契約されていない人（地域的に出来ない人）も潜在的なユーザーとしては多いかと思うのでそのような方へのアプローチがもっと目に見えてされても良いのかなとは思いました。
既に色々とやられている中だとは思いますが、あくまで主観での改善点です。

【委員】
＃4で行われているような、取り上げた人物に対する客観的な評価（師匠が高橋さんを評している場面）が、番組の中に織り込まれていると、一種のウラが取れている印象を視聴者に与えることができ、内容に深みがでるように思います。
また、近年のドキュメンタリーで多用されている「インタビュアー」がカメラの後ろに控え、直接インタビューイの話を視聴者が直接聞いているような演出の多用が効果的では、と感じました。
インタビュアーとインタビューイが対談形式で画面内に並んで話している形式もある程度は必要かもしれませんが、これを多用すると、視聴者としては、劇場などで「観客の一人として」遠くから拝聴している、冷めた気持ちが強くなってしまいます。
現在のインタビュアーは、拝聴しているかぎり、あまりインタビューに熟練されていない印象が強いので（本当は違うと思いますが）、演出をもう少し工夫して頂けると随分と印象が変わるように思いました。

【委員】
視覚的な団体や企業の歴史年表的なロールがあっても良いのかと思います。

【委員】
個人的には初めて見るガス会社内部の映像をもっと見たかった。
男爵太鼓の高橋さんの演奏もフル通しで見たかった。
出演者による一市民の立場からの函館（道南）に対する課題・提言、（抱えている）問題点などへの発言があるとさらに良かった。
これからも楽しみにしています。

【委員】
＃2「函館モノクラフトマーケット代表　千葉建介さん」
モノづくりをしている様子をもっとみたいと思いました。
出来上がりまでの工程にもっと時間をとっても良いと思いました。
インタビューに答えている場面で、何について答えているのかがわかるように、Q の内容がテロップで表示されているとよいと思いました。

＃3「北海道ガス株式会社」
バックの音がうるさくて、何を言っているか聞き取りづらい場面があったので、字幕があった方が良いと感じました。
また、インタビューだけではなく、仕事をしている様子をもっと取り入れた方がよいと思いました。
例えば、ガス漏れの連絡があるという話が出ていましたので、実際にお客様の家に駆け付けたり、相談にのったりするような場面があるとインパクトがあり、興味がそそられると思いました。

＃4「七飯男爵太鼓創作会　第4代会長　高橋理沙さん」
ナレーションで「七飯男爵太鼓創作会」について説明がほしいと思いました。
どのような会なのか、よくわからないまま話が進んでしまう印象を受けました。
会長の高橋さんが演奏する姿が最後の方に出てきますが、せっかくなら冒頭に流した方が視聴者の興味を引き付けられると思いました。
演奏時の迫力とインタビューで話す優しい雰囲気のギャップは、視聴者の興味を引き付けるだろうと感じました。

【委員】
次期のミライハコ、若い子が主役だったら良いなぁ～沢山応援したいです。

【委員】
年に 1 回はミライハコ特別編なのか総集編なのか 1 時間番組を組んで欲しいですね！

【委員】
インタビュアーの阿部さんの、どこか飄々とした感じが、話しやすい雰囲気をつくっているのだと感じました。
変な話、NHK のアナウンサーのインタビューでは、真面目というか重くなりすぎるので、阿部さんくらいの方がインタビューを受けやすいのではと思います。
このような番組は、本人のモチベーションのためにも、地域の方へ広げていくためにも、とても大切なことだと思います。
まちづくりや地域づくりのために必要な番組だと思います。
全体的にとても真面目につくっているなという印象です。

そのこと自体は高く評価しますが、ほんの少しだけ遊びの要素が入ると、15分という時間にメリハリがつき、見やすくなるかもしれないと思います。

モノクラの会は、時間的な制約があるので難しいとは思いますが、周りの協力者や支援者、一緒にやっている人のことも、あと少し知ることができればとも思いました。

北ガスの回は支店長目線でのちょっとしたエピソード的なものが入ると、北ガスがより身近になったのでは？（TBS の「がっちりマンデー！」のような・・・）

七飯男爵太鼓の回は前半の、太鼓の上に大切なものを思い浮かべる（家族）の部分、そのことの意味がちょっと分かりづらかったような気もします。
とても良い話しなので、なおさら、その意味がしっかり伝わるとよかったなと

■番組制作に対する要望
【委員】
前回も書かせていただきましたが、当地は　やはり、めだつ人　と　めだたない人とのギャップがありすぎる特殊な地域ですので、NCV さんが、この地域の人と人とを結ぶ大きな役目を持っていると実感しました。

【委員】
回を重ねるごとに見せ方や伝え方がより良くなっているように感じ、ミライハコというパッケージが進化していることを感じます。
個人を介して幅広いフィールドで地域の未来を担って頑張る組織や団体があることを再認識
できる、地域に密着した NCV さんだからこその番組だと客観的に思いました。
地元の人が地域を誇りに思い、市外の人は函館の魅力を深堀りして感じることのできる番組として
今後も続いて欲しいと願います。

【委員】
「ミライハコ」のような、地域で活躍している方々の「生の声」をテレビを通して視聴するのは、極めて価値の高いものですし、実に面白い。
あらゆるメディアが、「ひと」を取り上げるコーナーを必ず有していることからもうかがえます。
NCV らしい地域密着の「ひと」を取り上げる番組を続けていただきたいと期待しております。

【委員】
引き続き地域に根差した街と人その思いを感じられる番組創りを希望いたします。

【委員】
ミライハコという番組が、なぜこの会社、この団体に注目したのか、その理由が聞けると良いと思いました。
例えば、「〇〇について注目されている〇〇に、〇〇について聞いてみた」などのナレーションがあるだけで、ぐっと見やすくなると思いました。
全体的に話している時間が長いと感じました。
もっと映像や構成に動きや緩急がほしいと思いました。
テロップや字幕表示、ナレーションをうまく取り入れ、わかりやすくする工夫があれば、さらに良い内容になると思いました。

【委員】
開港事始めで「はこだて一番あれこれ」の特集はどうでしょうか！

【委員】
函館でも、函館市女性会議等防災に取り組んでいる団体が増えてきています。
町会でも、防災への意識が高くなってきています。
そういった防災意識を高めていく番組を、短い物でも良いので継続的に放送していっていただけると嬉しいです。
今、町会の活性化が地域づくりにとって大きな課題となっています。
活性化に向けて活動を始めた町会を紹介していく番組もあったらいいなと思います。

■その他全般について
【委員】
サービスとは関係ないかもしれませんが、個人でも地域の情報を SNS などで発信することが当たり前になっている中で、映像コンテンツとしてのクオリティや取り上げる切口、地域との関係性など、NCV さんじゃなきゃ出来ないような番組制作をされていることに、まずは地域メディアとしての心強さとこれからの希望を感じました。
これからも一視聴者として楽しみにしておりますので、宜しくお願いします。

【委員】
函館の情報やイベントの紹介など、工夫を凝らした内容をこれからも続けてほしいと思います。

【委員】
いつも楽しくそしていろいろな情報提供ありがとうございます！！これからも楽しみにしております。

【委員】
より地域とのつながりを密にしていった活動、番組を進めて行ってください。期待しています！